Aomi Frontier Bldg., 2-4-24, Aomi, Koto-ku, Tokyo 135-0064 JAPAN Phone 03.3570.5500 japan.taylormadegolf.com www.adidasgolf.com/japan www.ashworthgolf.jp

<報道資料>

2012 年 5 月 1 日 テーラーメイド ゴルフ株式会社

テーラーメイド-アディダスゴルフ契約プロ I・J・ジャンが国内ツアー 7シーズンぶり 2勝目を獲得!

~『 一一 ドライバー』が国内ツアー初優勝!!~

テーラーメイド ゴルフ株式会社(本社:東京都江東区/代表取締役社長:菱沼信夫)では、同社が展開する「テーラーメイド-アディダスゴルフ」の契約プロ、I・J・ジャンが 4月 26日~4月 29日に開催された「中日クラウンズ」 (開催場所:名古屋ゴルフ倶楽部 和合コース/日本)にて「R11Sドライバー」を使用してツアー通算 2勝目を飾りました。

トップと2打差の4位タイで最終日を迎えたI・J・ジャンは、「R11S ドライバー」を駆使し、前半から安定したゴルフでスコアを伸ばしてハーフ終了時に首位タイに浮上。16番で後続を突き放すバーディーを獲得するとそのまま2打差で逃げ切り、5バーディー・1ボギーの通算8アンダーで7シーズンぶりとなるツアー通算2勝目を獲得しました。



『R11S ドライバー』を駆使し、逆転勝利を飾ったI・J・ジャン

I・J・ジャンは以下のように述べています。「ツアーでも屈指の難コースの攻略に『R11S ドライバー』は、欠かせない強力な武器となってくれました。和合コースの小さなグリーンをとらえるためには、フェアウェイキープは絶対必須でした。その中、安心感のあるアドレス、風に負けない強い弾道と大きな飛距離のおかげで、確実にフェアウェイを狙っていくことができました。初優勝から 7 年ぶりの勝利となりましたが、『R11Sドライバー』が過酷なツアーでの勝ち方を思い出させてくれました」。

今回の勝利により、『R11S ドライバー』が国内ツアーにおける初勝利を獲得。世界のツアーでは早くも 4 勝目を記録しました。今後も「テーラーメイド」、「アディダスゴルフ」のプロダクトを通じて世界中のツアープロの勝利に大きく貢献していきます。

*プロが着用しているハートマークをあしらった「ハートキャップ」は、『R11S ドライバー』のプロモーションの一環で着用しているもので市販されている商品ではありません。

|-J・ジャン 使用スペック*1

ドライバー: 『R11S ドライバー』

<SPEC> ロフト:9.0°、シャフト:Fujikura X 75X / 44.5inch

*1: 使用スペックに関しては一部、市販モデルとは仕様が異なる場合があります。







■「R11Sドライバー」

『R11S ドライバー』では、新たに5通りのフェースアングル調整を可能にするNew「ASP(アジャスタブル・ソール・プレート)」を搭載。ロフト調整機能の「FCT(フライト・コントロール・テクノロジー)」、そして弾道調整を可能にする「MWT®(ムーバブル・ウェイト・テクノロジー)」の3つの調整機能を組み合わせることで80通りの弾道調性が可能。さらに、ホワイトカラーを施したクラウン部がアドレス時における安心感と集中カ向上に貢献。ブラックPVD加工されたフェースとのコントラストがターゲットに向かって正確なアドレスをサポートします。また、460CCのオーソドックスなヘッド形状が高い慣性モーメントと低深重心化を実現、高い直進性と大きな飛距離を導き出します。



【TaylorMade Golf Inc.,/ テーラーメイド ゴルフ株式会社について】

TaylorMade Golf Inc.,(米国)は 1979 年の創立以来、最高品質のゴルフ用品を提供する世界のゴルフシーンにおけるリーディングカンパニーです。1998 年にはアディダスグループの完全子会社となり、「アディダスゴルフ」ブランドのフットウェアおよびアパレルを中心としたラインナップも展開。2009 年には「アシュワース」ブランドのアパレルを中心としたプロダクトの展開を開始。日本では1986 年から事業を開始し、現在はテーラーメイド ゴルフ株式会社として「テーラーメイド」、「アディダスゴルフ」に加え、「アシュワース」ブランドを展開。ツアープロを始め、あらゆるゴルファーのニーズに応える幅広い製品を提供し続けています。

【アディダスグループについて】

アディダスグループはスポーツ用品業界をリードする世界的な企業です。同グループが抱える「アディダス」、「リーボック」、そして「テーラーメイド」を中心に幅広い製品を通して消費者のニーズに基づいた戦略的かつ相互補完的な発展を目指しています。